

平成24年度

千代田区次世代育成支援推進会議の報告

I 活動報告書

II 次世代育成支援行動計画
(後期行動計画)実績調査表

千代田区子ども・教育部

目 次

I	活動報告書	1
1	委員名簿	2
2	会議の開催状況	2
3	会議での検討内容の概要	
(1)	第1回	2
(2)	第2回	3
(3)	第3回	5
(4)	第4回	5
	次世代育成支援推進会議におけるこれまでの取り組み	6
II	次世代育成支援行動計画（後期行動計画）	11
	（平成24年度末現在）実績調査表	

I 活動報告書

1 委員名簿

1	会長	恵泉女学園大学 大学院教授	大日向 雅美
2	副会長	児童健全育成推進財団 企画調査室長	野中 賢治
3	委員	株式会社 ベネッセコーポレーションベネッセ 次世代育成研究所 調査研究課長・主任研究員	高岡 純子
4	〃	東京商工会議所千代田支部副分科会長	舟橋 千鶴子
5	〃	青少年委員	竹川 真紀
6	〃	民生・児童(主任児童)委員	坂口 純子
7	〃	保育園保護者	荻原 弘樹
8	〃	幼稚園保護者	加藤 起久子
9	〃	小学校保護者	久保寺 健郎
10	〃	中学校保護者	赤池 延浩
11	〃	次世代育成担当部長	保科 彰吾
12	〃	子ども支援課長	依田 昭夫
13	〃	児童・家庭支援センター所長	山下 律子

※ この会議は次世代育成支援推進対策推進法第21条第1項の「次世代育成支援対策地域協議会」も兼ねている

2 会議の開催状況

	開催月日	会場
第1回	平成24年7月18日	教育委員会室
第2回	平成24年11月19日	教育委員会室
第3回	平成25年1月23日	教育研究所 研修室
第4回	平成25年3月13日	教育委員会室

3 会議概要

(1)第1回会議

①報告事項

ア 推進会議におけるこれまでの取り組みについて

推進会議におけるこれまでの取り組み

平成23年度活動報告

次世代育成支援行動計画(後期行動計画)の進捗状況

イ 平成24年度新たな取り組みについて

千代田区発達支援における療育事業検討会及び発達障害について報告し、質疑応答を行った。

②質疑応答

委員) 療育事業にかかわるカウンセラーは、何人に対し1人の割合でかかわっているのか。

区) グループ指導の場合、7名のお子様に対して4名のスタッフがついている。スタッフは心理

職と言語聴覚士とか作業療法士といった色々な方を組み合わせている。

委員) 発達障害の子どもは知的障害の子どもと同様に特別支援学級に通うのか。

区) 発達障害の子どもでも一人一人レベルが違うため、心理士である相談員と療育を担当していた先生たちと相談の上、最終的に保護者に選んでいただくことになる。

委員) 就学相談の対象年齢を小学校1年まで拡大したとのことだが、学齢期の子どもについてはどのような対応が行われているのか。

区) 学校の中で、特別支援学級等の教員の指導を受けることになっている。今年度より配置する発達専門の専門員については、18歳まで対応している。

委員) 発達障害に対して、保護者から相談される場合と、相談がされずに埋もれてしまうケースが考えられる。相談を促進するために区として働きかけが行われているのか。

区) 心理士、心理職、言語聴覚士や理学療法士等が保育園や幼稚園を訪問し、気になる子どもについて保育園・幼稚園に声をかけ、園での子どもとのかかわり方について助言したり、療育につながるようにしたりしている。

委員) 発達障害の相談について、現在はそれらについて説明がなく、保護者同士の関係性に委ねられている印象をうける。周りの保護者と相談できればよいが、そうでない場合そこで終わってしまう。それでは理解促進と言われても、理解しようがないと感じる。

委員) 発達障害に関する講座があっても、自分で興味を持って参加した人に限られる。みんながちゃんと知っておいたほうがいいことなので、講座に行かない方にも働きかけられるようなことがあるといい。

委員) 発達障害は、“障害”という言葉に、何らかの遅れがあると誤解されることが多い。

委員) パンフレット等が素晴らしく出来上がっていても、読まない人も考えられる。保護者会等を利用して、説明もしたほうがよい。

(2)第2回会議

①前回の会議概要

②課題 「就学前の子どものための教育・保育プログラム」について

議題1： 0～5歳児の発達の姿と保育のポイントについて

<概要>

・「就学前の子どものための教育・保育プログラム」は、0～5歳児の発達段階に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするために、「基本的な生活習慣」、「身近な環境や活動への興味遊びへの取り組み」、「人との関わり集団への適応」の3つの側面から捉えている。

・保育のポイントは、0歳児～5歳児まで、子どもの発達や学びは連続しており、この連続性の中で徐々に養護の領域から教育の領域へと重点が移っていくとしている。

<委員の主な意見>

- ・1歳児で一番大事なのは、アタッチメントの形成、つまり愛着の形成、安全基地の確保ということである。人見知り期ではなく、安全基地づくりを確かにする時期とか、そういう書き方のほうがよい。
- ・2歳児について、よいと思った。通常は2歳児というと、「反抗期」を書くものが多いのですが、ここはそうではなく、「自分の思いを保育者に受けとめてもらいながら安心して自己主張できる」と書いてある点がよい。
- ・4歳で、「他者の受容」は、難しいのではないか。他者の受容は、小学校の中学年から高学年の課題と言ってもよく、ここで多くのことを期待し過ぎると、かえって子どもが辛いと思う。
- ・最低限、成長にかかわらず、ここまでは、家庭でやっておいってくださいということを書いていただきたい。

議題2：保護者との連携について

<概要>

「初めて家庭を離れて過ごす場である保育園や幼稚園で安心して生活していくためには、家庭と園との信頼関係を築くことが何より重要である」との基本認識のもと、園だよりや保護者会の工夫等、様々な取り組みを行っている。さらなる保護者との連携強化を検討する。

<委員の主な意見>

- ・園だよりを配布する際、副園長先生は、さらに詳しくお話しをしてくれる。
- ・園だよりには、この年齢の子に必要な活動なども書かれているので参考になる。
- ・園の行事を通じたPTA活動（お手伝い）を通して、子どもたちの様子を見る機会があるので、一方的なことはない。
- ・連携強化には、保護者へのアドバイス、例えば園はこういう努力をしているけれども、保護者にはこの点を大事にしてほしいや、こういうようなことで園は助かっていたり、気づいた例があるよというような内容を紹介してほしい。

議題3：保育園・こども園・幼稚園から小学校への滑らかな接続について

<概要>

いわゆる「小1プロブレム」について、学校生活への不適応を示す子どもには、段差を乗り越える基本となる力を育むことが重要と考えている。そこで、保育園・こども園・幼稚園から小学校への滑らかな接続について検討する。

<委員の主な意見>

- ・小1の壁というと問題点ばかり指摘されていて、学校・園に問題があるみたいな指摘が多い。その点、区のプログラムがすばらしいと思ったのは、そうではなく、子どもは、社会とのかかわりの中で、こういう成長の段階で、乗り越えるべきプロセスとして、紹介されていることである。
- ・小学校までに最低ここまでは、家庭でしてほしいということは、はっきり書いてほしい。
- ・子どもにとって1日の生活のリズムは大切で、そこを、議論することが必要ではないか。

(3)第3回会議

①千代田区の発達支援の流れについて

児童家庭支援センター所長が資料「千代田区の発達支援の流れ」をもとに、説明した。

②子ども発達センターさくらキッズ 事業概要について

こども発達療育研究所理事長及びサービス提供責任者が説明を行った。

③子ども発達センター「さくらキッズ」見学

(4)第4回会議

①平成 25 年度予算における取組について

事務局より「平成 25 年度の予算概要」、「後期行動計画」について説明を行い、平成 25 年度にむけた展望を説明し、その後質疑応答を行った。

<質疑応答>

委員) 公立の幼稚園児数も増加しているのか。

区) 幼稚園児は、大体 400 人台ぐらいで推移し、ほぼ横ばいである。今、3・4・5 歳児は約 1,000 人で、そのうち、保育園が約 5 割、約 4 割が幼稚園児である。

委員) 自分の幼稚園だけを見ると、確実にふえているように思える。麴町地区だけでいうと、番町、麴町、九段、富士見はもう定員を超えそうである。区立幼稚園を希望しても入れないことがあるのか。

区) 推計等々から、保育園は、ほぼ満杯の状態である。幼稚園の充足率は、7 割から 8 割程度である。幼稚園は定員を、3・4・5 歳児全て 35 人編制である。特定の幼稚園は、抽選になり、ご希望に沿えないような状況である。区全体では、十分空きがあるという状況である。

委員) 幼稚園も希望している家の近くで通えるようにしていただけるとありがたい。

区) そこは極力配慮させていただく。

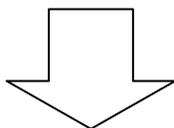
委員) 500 世帯ぐらい入るマンションができたらどうするのか。

区) 場合によっては、園児の定員をふやす方向も含めて、検討する。

次世代育成支援推進会議におけるこれまでの取り組み

千代田区では、次世代育成支援対策推進法に基づき、平成16年10月に「次世代育成支援行動計画（前期）」を策定した。そして、下記の点について、一層議論を深めるために、平成17年5月に「次世代育成支援推進会議」を設置した。

- 1 行動計画に示された子育て支援策を評価するとともに、新規事業及び既存事業の拡充策を検討する。
- 2 子育てと仕事の両立を実現するために、企業に対してどのような働きかけを行えば有効か検討する。
- 3 行動計画を発展させ、子育て環境の整備のみならず、広く次世代の健全育成を考えていくには、千代田区の子どもに、どのように育ちどのように生きてほしいと考えているのか基本的な考え方を明確にすることを旨とする。



<平成17年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

1 子育て施策全般

- (1) 子ども一人あたりの福祉・教育予算は23区内で最高水準にあるが、区の施策やサービス、先進的な取り組みに関する情報が子育て家庭に行き渡っていない。区の施策を一元的に提供することは勿論のこと、関連団体の活動も体系立てて提供していくべきである。

区「千代田区子育てガイドブック」の刊行

「千代田区総合ホームページ」の充実

- (2) 子育てしやすい地域社会となるためには、子どもを見守り、子育てを応援する活動やサービスを個別に提供するだけでなく、誰でも子育てに悩んだときには相談でき、解決できるという安心感の得られる場や総合的な取り組みが用意される必要がある。また、次世代育成支援を効果的に実施するという観点から、区の各部署が連携協力するための工夫が必要である。

区「チャイルドケアプランナー」の設置

「子どもと家庭に関わる総合相談」の実施

「こども・教育部」の設置

- (3) 千代田区の地域特性から、在勤者・区内企業を「昼間区民」として、次世代育成支援に取り組むパートナーとして位置づけ、積極的に働きかけを行っていくべきである。

区「次世代育成支援行動計画策定奨励金」の支給

認証保育所「キッズスクエア丸の内東京ビル」の設置

2 地域の子育て支援力

地域での子育て支援は地域活動を支える人材が鍵になる。また、地域で子育てを支えるということは、これまで育児への寄与度が低いとされていた父親の育児参加も不可欠な必要条件である。

区)「ファミリーサポート制度」の推進

「ふたばサービス制度」の推進

「子育て・家族支援者養成事業」の推進

「地域の子どもサポーター」の養成と活用

3 子育てと仕事の両立

社員の育児を支援するに際して対応すべき人事労務管理上の問題について、他社の事例を参考にし、他社の担当者と意見交換することによって、よりよい対応策が見つかる可能性がある。また、企業が従業員の子育てを積極的に支援しても、保育園等地域生活における支援体制が整備されていなければ仕事と子育ての両立は困難である。そこで、区は、区内企業を集め、次世代育成支援の具体的な方策について意見交換・情報交換するとともに、企業と行政とのコミュニケーションの場を設けるべきである。

区)「ダイバーシティ・マネジメント研究会」の設置

<平成18年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

1 理念策定

将来にわたって次世代育成支援施策の礎となる理念は、「条例」という形で明確にすべきである。また、条例化にあたっては、区民その他関係者による議論の場を設け、議論を深める必要がある。

区)「次世代育成の理念を考える検討会議」の設置

2 両立支援

企業間の情報交換の機会を提供する必要がある。また、ワーキングマザーのストレスや悩みの解消、心理的閉塞感解消の場を提供する必要がある。

区)「ダイバーシティ・マネジメント研究会」の設置

「Nobody's Perfect プログラム」等の実施

3 施策評価

次世代育成支援にかかる事業が多岐にわたっていることから、総体的に評価することは難しい。そこで、施策全体を評価するのではなく、評価すべき項目を、①次世代育成支援組織体制、②人の育成、③子ども家庭支援センター機能の3点に絞り込むべきである。

区)翌年度に評価を実施

<平成19年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

以下の11事業について施策評価を実施した（詳細は平成19年度活動報告書を参照）。

1 「組織体制」の分野

(1) 次世代育成支援を推進するための体制づくり

2 「人の育成」の分野

- (1) 青少年健全育成施策の推進
- (2) ファミリー・サポート・センター事業の充実
- (3) 子育て支援者の養成《計画外事業》
- (4) 地域の子どもサポーターの養成と活用
- (5) 子どもに関わる職員の対応能力の向上

3 「センター機能」の分野

- (1) 子ども虐待防止ネットワーク事業の推進
- (2) 子どもと家庭に関わる相談事業の充実
- (3) こども在宅サービスの充実（ショートステイ）
- (4) 子ども在宅サービスの充実（トワイライトステイ）
- (5) サービス利用のしくみづくりの推進（子育てガイドブック）

<平成20年度の推進会議における提言とその後の施策化状況>

1 次世代育成支援後期行動計画の体系

前期行動計画に示されている6つの視点5つ目標は普遍的なものであり、引き続きこれを後期行動計画の骨格として定め策定していく必要がある。

(1) 6つの視点

- ①多様なライフスタイルを認め合う
- ②子どもの幸せを第一に子育てを支援する
- ③親育ちを支援し、家庭の教育力を高める
- ④働き方の見直しは企業の社会的責任である
- ⑤地域の育児力を回復するとともに、地域のきずなを強める
- ⑥子育て支援サービスのあり方と区民の主体的な取り組み

(2) 5つの目標

- ①子どもがのびのびと健やかに育つよう、支援します
- ②子育てに喜びとゆとりをもてるよう、親と家庭を支援する
- ③安心して子育てできるまちをつくる
- ④子どもの成長に応じた経験や学びの場をつくる
- ⑤区民・企業・行政が一体となって子育てに取り組む

2 ニーズ調査の実施

子育てに関する生活実態やニーズの把握をし、結果を十分に分析し後期行動計画の策定検討する必要がある。

3 中高生アンケート

携帯電話やインターネットを使った問題が起きている中、中高生の実態・本音が聴けるような設問にする必要がある。さらに、自分が周囲の人に大切にされているかについての設問も加え、千代田区独自のアンケートとして検討実施する必要がある。

＜平成21年度の推進会議における提言とその後の施策化状況＞

1 ニーズ調査結果

ニーズ調査の調査結果により千代田区次世代育成支援行動計画（後期）に盛り込むため、各事業の目標事業量を算出。

2 中学校・中等教育学校アンケート調査

千代田区次世代育成支援行動計画（後期）をよりの確に把握し、反映させるために、中学校・中等教育学校の放課後の居場所、家族との関わり、区内施設の利用、携帯電話やパソコンの利用など千代田区独自のアンケートとして実施。

3 千代田区次世代育成支援行動計画（後期）策定

1・2の結果に加えてインターネットのホームページ等でパブリックコメントを実施、平成21年度の次世代育成推進会議での議論、意見を踏まえて計画の策定は区が行なった。

4 千代田区次世代育成支援行動計画（後期）の概要

様々な違いや垣根を乗り越えて、お互いが理解し、認め合い、そして尊重し合う「共生」の理念のもと、家庭・学校・園・地域等がともに一体となって子どもたちを育て、また、自らも育っていく、いわば「共育」を実践するため、次の6点を基本的な視点として計画を策定した。なお、これらの視点は、今後、千代田区における次世代育成支援施策を展開していくうえでの指針ともしていく。

千代田区次世代育成支援行動計画（後期）の内容としては、5つの目標のもと、138事業（計画事業 63事業＋関連事業 75事業（計画事業 63事業のうち、計画上の新規は 31事業））があげられている。

計画期間は平成22年4月から平成27年3月。

＜平成22年度の推進会議における提言とその後の施策化状況＞

次世代育成支援後期行動計画の5つの目標にあてはめ課題検討した

1 5つの課題

- (1) 保育園の待機児童対策
- (2) 仕事と子育ての両立支援
- (3) 放課後対策（子どもの居場所づくり）
- (4) 親育ち支援
- (5) 子育て支援サービス

2 4つの追加課題

- (1) ① 子育て支援を子どもからの目線で考える
 - ② 子どもが親と過ごす時間の大切さ
 - ③ 保育所の質について
 - ④ 常勤でなく、パート・個人事業主の女性の子育て支援
- (2) 学童クラブ

- (3) 中高生の居場所
- (4) 学校土曜休業（授業時間数）

＜平成23年度の推進会議における提言とその後の施策化状況＞

次世代育成の4つの課題について検討した。

1 4つの課題

(1) 課題1 幼児療育事業について

- ① 療育事業の拡充
- ② 早期発見システム
- ③ 就学相談の強化策
- ④ 障害児放課後支援事業の実施
- ⑤ 区民への理解促進

(2) 課題2 就学前教育プログラムについて

- ① 公立、私立、認可形態にとらわれない共通の幼児教育
- ② 子どもの発達や学びの連続性を考慮した幼児教育
- ③ 小学校へすすむ視点を見据えた幼児教育
- ④ 小学校との連携教育
- ⑤ 家庭教育との連携

(3) 課題3 待機児童解消に向けた保育供給計画について

- ① サービスの質の向上
- ② 量的サービスの拡充
- ③ 多様な保育ニーズへの対応

(4) 課題4 児童館のあり方について

＜平成24年度の推進会議における提言とその後の施策化状況＞

次世代育成の以下の課題について検討し、施設見学1か所を実施した。

1 課題「就学前の子どものための教育・保育プログラム」について

- ① 0～5歳児の発達の姿と保育のポイントについて
- ② 保護者との連携について
- ③ 保育園・こども園・幼稚園から小学校への滑らかな接続について

2 施設見学会

実施日 平成25年1月23日

施設 子ども発達センター さくらキッズ

(千代田区神田司町2-16 神田さくら館6階)

Ⅱ 次世代育成支援行動計画 (後期行動計画)実績調査表

(平成24年度末現在)